

# ふくしま オーガニック通信

～オーガニック・ランドふくしまをつくろう～

No. 30-3

平成 31 年 3 月 20 日

福島県農業総合センター

有機農業推進室

福島県郡山市日和田町高倉

字下中道 116 番地

TEL 024(958) 1711

FAX 024(958) 1730



## 平成 30 年度福島県農業普及指導活動成果発表会にて 会津の有機農業の取組を発表！

会津農林事務所農業振興普及部

平成 31 年 1 月 24 日（木）に開催された普及成果発表会において、会津農林事務所農業振興普及部有機農業担当星主査が「会津有機農業における組織化および生産者の連携による産地力強化の取組 ～普及指導員のコーディネートによる有機農業の活性化～」と題して、会津地方における有機農業への取組活動について発表しました。

東京電力福島第一原発事故により広まった不安を、普及指導員としてどのように支援していったのか、そして昨年度結成された「会津オーガニック匠の会」による販路拡大に至るまでの経過等、産地の強みを活かす取組について披露しました。

本県産農産物は、風評に負けず、生産力を強め、産地のブランド確立に向けた取組が必要です。有機農業の推進について今後とも皆様のご協力をお願いします。



発表する星主査

### 会津有機農業における組織化および 生産者の連携による産地力強化の取組 ～普及指導員のコーディネートによる有機農業の活性化～



平成30年8月撮影

会津農林事務所農業振興普及部 主査 星 輝幸

発表資料①



### 会津有機農業の維持発展のために



発表資料②

## 平成 30 年度環境にやさしい農業セミナーを開催しました！

農業総合センター有機農業推進室

平成 31 年 2 月 20 日（水）に農業総合センター大会議室において環境にやさしい農業セミナーを開催し、約 90 名の方に参加いただきました。

このセミナーでは、農研機構 中央農業研究センターから講師をお招きし、生産体系研究領域作物栽培グループ長の三浦重典氏から「機械除草技術を中心とした水稻有機栽培」について、虫・鳥獣害研究領域生物的防除グループ長の長坂幸吉氏から「天敵を活用した有機施設トマト栽培」についてご講演をいただきました。

また、県が、生産現場の課題を解決するために設置した有機農業に関する現地実証ほの成績について報告をしました。実証ほの結果については、実証ほ結果①～④をご覧ください。

有機栽培の生産現場では、収量・品質の低下をもたらす雑草や害虫の被害が大きな問題となっており、今回のセミナーでは、雑草や害虫の被害を最小限に抑える栽培技術について学ぶことができました。



あいさつ 天野所長



講演 中央農研 三浦氏

### 実証ほ結果① 二本松市・ソルゴー（露地キュウリ）

#### 「障壁作物の囲い込み栽培による在来天敵を活用したアブラムシ抑制技術の実証」

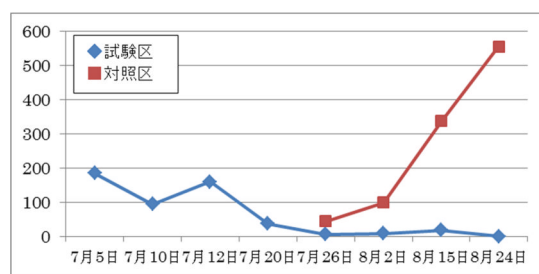
農業総合センター有機農業推進室

ソルゴー囲い込み栽培による露地キュウリにおける在来天敵の調査及びアブラムシ類の発生抑制技術の実証を二本松市の柳瀬聡一郎氏のほ場で行いました。

ソルゴー周囲の天敵を調査したところ、7月前期はハナアブ類、7月後期以降はテントウムシ類が多く見られました。また、キュウリほ場内でも、テントウムシ類の幼虫や卵、クサカゲロウの卵、ハナアブ類の幼虫等を確認しました。

キュウリのアブラムシ類発生を調査したところ、試験区では7月中旬まで発生がみられましたが、7月中旬以降はほとんどみられませんでした。対照区では、キュウリ収穫終盤の8月中旬以降発生が増加しました。

ソルゴー囲い込み栽培では、在来天敵のほ場内密度を高めることができ、適切な整枝管理を行うことで、8月に発生するアブラムシ類の抑制に効果的であると期待されます。



露地キュウリのアブラムシ類の発生経過



ハナアブ類幼虫、テントウムシ類卵

実証ほ結果② 西白河郡泉崎村・水稻（コシヒカリ）

「明渠設置による冬期間の水田乾燥化ほ場における雑草抑制技術の実証」

農業総合センター有機農業推進室

社会福祉法人こころん（泉崎村）の水稻実証ほは、平成 29 年度から継続して実施しており 2 年目となります。（慣行栽培から有機同等栽培に転換して 2 年目です。）

こころんの水稻栽培の特徴は、①肥料（有機質肥料含む）、たい肥は使用しない、②稲の副産物（稲わらなど）以外は水田に投入しない。③農薬は使用しない、の 3 点と雑草抑制のための④冬期間の水田乾燥化です。今年度の実証ほは、平成 30 年 2 月 28 日に作溝（深さ 40 cm × 幅 15 cm、縦 5m × 横 7m の碁盤目）し、乾燥化を促進しました。

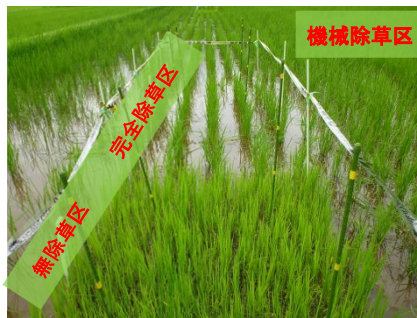
水田ほ場では 3 区（完全除草区、機械除草区、無除草区）を設け、また、容器に水田土壌を採取し雑草発生を調査しました。

平成 29 年度と 30 年度の 2 か年の実証から、冬期間の土壌乾燥化は、「コナギ」の発生を抑制し、「ノビエ」の発生を促進する効果を確認しました。

今後、反転耕や機械除草などと組み合わせて、収量の向上を図っていきます。



明渠設置 (2/28)



水田ほ場での調査 (7/5)



容器での雑草調査 (7/12)

表 区の設定と除草管理

区名	完全除草区	機械除草区	無除草区
明渠設置	2/28 トレンチャーを使用し、深さ 40 cm × 幅 15 cm で、間隔縦 5m × 横 7m に作溝		
除草管理	5/31、6/8、6/20、7/5、 7/10：手取除草（雑草引抜 及び土壌攪拌）	5/30：チェーン除草 6/8、7/6：田車＋ビニペッ トスプリング除草	田植後～7/9：除草せず 7/10：手取完全除草

表 冬期間の土壌乾燥化による効果

草種	冬期間の土壌乾燥化による効果	備考
コナギ	発生の <b>抑制</b>	平成 29 年度実証結果より
ノビエ	発生の <b>促進</b>	平成 30 年度実証結果より

実証ほ結果③ 会津若松市・施設ミニトマト

「ミニトマトにおける天敵を利用した効果的な害虫防除技術の実証」

会津農林事務所農業振興普及部

ミニトマトにおけるアブラムシ類およびアザミウマ類の抑制のため、天敵資材（コレマンアブラバチ（アブラムシ類対策）、タイリクヒメハナカメムシ（アザミウマ類対策））の実証ほを会津若松市の永島幸俊氏のほ場に設置しました。

調査結果からは明確な天敵資材の効果を確認できませんでしたが、設置した生産者からは、害虫発生を低く抑えることができたとの意見がありました。

天敵の導入は、ホリバー等に付着した害虫の種類や密度、ミニトマトの生育状況、被害程度の比較等を総合的に判断することが重要と考えられました。



生育状況(8月20日)



コレマンアブラハチ放飼(7月6日)



タイリクヒメハナカメシ放飼(8月9日)

#### 実証ほ結果④

### 「移植後の屑大豆散布と適期の機械除草を組み合わせた除草体系における効果の安定性の実証」

相双農林事務所双葉農業普及所

有機水稻の移植後の屑大豆散布と機械除草(3回)を組み合わせた除草体系における効果の安定性の実証を平成29年度と同一ほ場(南相馬市の羽根田薫氏)において行いました。

実証区の雑草乾物重は、屑大豆を散布しない慣行区に比べ8割程度に抑えられましたが、前年度と比べ2~3倍の雑草乾物重となりました。

機械除草の耕深が浅く適正な除草効果を得ることができなかったことなどが要因と考えられますが、収穫後からの管理を見直し、除草対策を図っていくこととしております。



実証区(8月6日)



慣行区(8月6日)

表 雑草調査結果

区	7月11日 雑草乾物重 (g/m <sup>2</sup> )	参考 H29 雑草乾物重 (g/m <sup>2</sup> )
実証区	73.5	26.3
慣行区	90.9	50.5

※H29は7月24日に調査。

#### 試験研究結果

### 「低投入持続型水田(水稻)の試験研究」

農業総合センター有機農業推進室

農業総合センター内水田に低投入持続型水稻有機栽培技術による実証試験田(低投入区:基肥なし)を設置し、生育及び収量について、一般有機栽培水田(有機慣行区:基肥あり)との比較試験を行いました。

平成30年 収量調査(水分は15%換算)

	総重 kg/10a	わら重 kg/10a	精糲重 kg/10a	籾葉比	粗玄米重 kg/10a	精玄米重 kg/10a	屑米重 kg/10a	千粒重 g	粒厚分布 %							1.8mm 以上 玄米 品質	落等 理由	食味 値 サツケ
									mm	mm	mm	mm	mm	mm	mm			
									~2.2 %	~2.1 %	~2.0 %	~1.9 %	~1.8 %	~1.7 %	1.7~			
低投入区1	1,066	585	474	0.81	400	390	10	22.4	4.3	31.7	44.9	12.9	3.5	1.4	1.2	4.0		84
低投入区2	1,052	548	496	0.90	418	404	14	21.8	2.0	21.5	50.7	17.4	5.0	1.9	1.5	5.7	カメムシ 着色	88
有機慣行区	1,433	787	634	0.81	537	519	18	21.9	2.6	26.5	48.9	14.5	4.1	1.7	1.6	5.0		88

※ 低投入区1は秋の明渠と春耕、低投入区2、有機慣行区は秋耕と春耕を実施。検査等級は10段階評価。食味値は近赤外分析計による分析値。

低投入区では本年からの試験に備え、前年まで完全除草を実施していたことから雑草の発生が少なく、有機慣行区は前年からの機械除草に加え基肥を有機アグレット 666 で 4kg/10a 施用したことから初期からアゼナ、コナギ、ヒエ等の発生が目立ちました。しかし、機械除草（1回）を実施した結果、収量は 8.7 俵/10a を確保して低投入区の約 6.5 俵/10a を上回り食味値も 88 と高くなりました。



収穫風景(10月22)

首都圏における福島県有機栽培米商談会を開催しました！

農業総合センター有機農業推進室

本県産の有機栽培米の販売促進を図るため、「環境にやさしい農業拡大推進事業（有機エコ農産物の流通・販路拡大支援事業）」の一環として、株式会社アグリ・プランと有機農業推進室が連携し、平成30年12月9日（日）にホテル東京ガーデンパレス（東京都文京区）において米の商談会を開催しました。

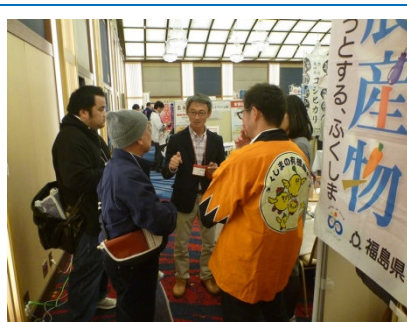
県内から8団体（個人）が出展し、首都圏の米穀小売店と具体的な取引などの話しが行われました。

平成29年度から「福島県有機栽培米生産者訪問見学会」と「首都圏での有機米商談会」を継続して開催してきたことから、「生産者と米穀小売店との関係づくり」が着実に進み、首都圏の消費者に福島県産有機米を食べていただける新たな販路ができました。

当日は、うつくしまライシーホワイトと県担当者にも販売促進を支援いただきました。



①やまろく米出荷協議会



②石澤農園



③遠藤有機農園



④あいづ有機農法生産組合



⑤すとう農産



⑥長尾農園



⑦渡部農園



⑧あじま農園



福島県出展コーナー

## 有機農業に関する理解促進講座を開催しました！

農業総合センター有機農業推進室

福島県では、「有機農業に関する理解促進講座」として、桜の聖母短期大学と連携し、学生を対象とした有機農業・有機農産物を知って貰う取組を継続して行っており、平成30年度も講座とほ場見学を実施しました。

10月13日(木)の講義では、(株)いちいフォーズマーケット店長霞浩一郎氏より有機野菜の販売に関する取組や携わる思いについて講話いただいた後、当日入荷した有機野菜を試食しました。学生からは「ピーマンは苦手だが、美味しく食べられた」「ミニトマトがとても甘かった」等の感想があり、講義前のアンケート結果では、80%の方が「有機農業」や「有機農産物」という言葉は聞いたことがあるもののよくわからないと回答していましたが、講義後は全員が有機農業について理解を深めることができたとのことでした。



霞店長による講話

10月27日(土)のほ場見学では、二本松市のオーガニックふくしま安達の関元弘氏の有機農業ほ場を見学しながら、関氏が有機農業に取り組んだ経緯や考えをお話いただきました。ほ場を見学した後は、ふくしま農家の夢ワイン(株)のワイナリーに場所を移し、有機野菜を使ったメニューを盛り付けたり食べたりしながら、当日参加してくださいました(株)デイリーサービス代表引地氏より、有機野菜の生産と販売を結ぶ流通についてお話しをいただきました。学生からも多くの質問が出され、生産、流通、消費それぞれの立場からの意見に耳を傾けながら交流を深めました。



交流会の様子

また、桜の聖母短期大学と株式会社いちいが連携して取り組んでいる春のお弁当企画において、オーガニックふくしま安達の有機エンジンが食材として使われることとなりました。

(お弁当販売の詳細については各いちい店舗へお問い合わせください。)4月から販売される予定ですので、お近くに寄られた際には手にとってご覧ください。今後も本講座を通じて、有機農業・有機農産物に関わる様々な方の思いを伝えて参ります。

## 「オーガニックを知ろう！食べよう！セミナー」を開催しました！

会津農林事務所農業振興普及部

会津農林事務所では、会津大学短期大学部食物栄養学科と連携し、平成31年1月25日（金）に同大学において、食物栄養学科の学生30名を対象とした有機農産物に関するセミナーを開催しました。

NPO法人会津自然塾の鹿野敏子氏より、有機栽培・有機農産物の加工の取組に関する講話や、同法人で加工している「手作り有機ちまき」、「有機ミネストローネスープ」、「有機身知らず柿のスムージー」の試食を行いました。参加した学生からは、「試食品はとてもおいしく、これからは有機農産物を食べたいです。」「素材の味がはっきりわかり、とてもおいしかった。」といった感想が出されました。

今後も、このような取組により有機農産物ファンを増やすとともに、有機農産物の生産振興、販売拡大を支援していきます。



講話の様子



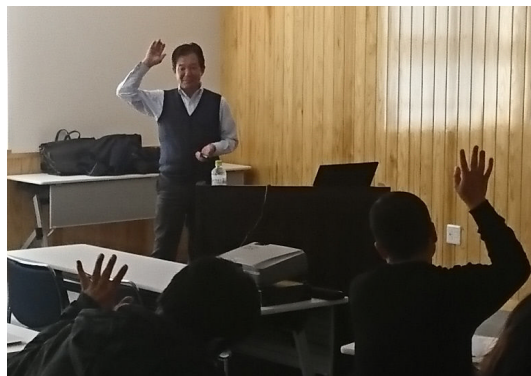
試食の様子

## 有機 JAS 認証の理解促進研修会を開催しました

環境保全農業課

平成31年2月7、8、13日に県内3地方で、有機 JAS 認証制度の理解促進研修会を開催し、延べ22名の方が参加しました。

研修会は、有機 JAS 認証を初めて申請予定の方などに有機 JAS 制度をより深く理解していただくため、オーガニック・ランド株式会社（福岡県）代表取締役 一百野 昌世（イオノ マサヤ）氏からご講演をいただきました。講演では、有機 JAS 認証申請のために必要な条件や生産方法の基準など、具体的な事例を交えた説明で、参加した方々からは、「初めてでも、とても分かりやすく理解できた。さらに知識を深めていきたい。」「来年度には、有機 JAS 認証を取得したい」などの感想が寄せられました。なお、福島県では、有機 JAS 認証の取得費用を補助する支援（別記）を実施しておりますので、認証取得の際は、ぜひご活用ください。



セミナーの様子

# お知らせ

## 平成 31 年度環境にやさしい農業拡大推進事業

県では、有機 JAS 認証の取得や生産安定と生産量の拡大に必要な施設、機械の導入を支援するため、平成 31 年度に下記の事業を実施、募集します。

### ○有機 JAS 認証拡大支援

有機 JAS 認証の新規又は認証継続の費用を支援します。  
新規及び継続の認証取得を希望する方に、新規取得費用の 3/4 以内、認証継続費用の 1/2 以内で補助します。

### ○環境にやさしい農産物供給体制の整備

有機農産物の生産規模の拡大や出荷の安定化に向け、共同で利用する施設・機械の導入経費を支援します。

施設・機械は、農業者 2 戸以上で構成する組織等で共同利用するもので、導入経費の 1/2 以内(上限額 2,000 万円)で補助します。

詳細については、最寄りの農林事務所農業振興普及部農業振興課へお問い合わせください。

## 環境保全型農業直接支払交付金事業について

本制度は、化学肥料・化学合成農薬を原則 5 割以上低減する取組と合わせて行う地球温暖化防止や生物多様性保全に効果の高い営農活動に対して、交付金により支援を行う制度です。

本交付金は市町村を經由して申請を行う必要がありますので、取組を希望する場合は、事前に農地の所在する市町村に、申請が可能かどうか（全ての市町村で実施している訳ではありません）確認してください。

なお、申請書類は 6 月末までに市町村に提出する必要があります。

### 1 事業要件

- ・主作物について販売することを目的に生産を行っていること。
- ・国際水準 GAP を実施していること。（「食品安全」「環境保全」「労働安全」「人権保護」「農場経営管理」に関する農業生産工程管理の取り組みについて、指導・研修棟を受講し、その内容を実施する。なお、GAP の認証を求めるものではない。）

### 2 対象となる取組と交付単価

	対象取組	対象作物	10aあたりの交付単価	対象地域
全国共通取組	カバークropp	-	8,000円	全域
	堆肥の施用	-	4,400円	全域
	有機農業 (うち、そば等雑穀・飼料作物)	-	8,000円 (3,000円)	全域
地域特認取組	冬期湛水管理	水稻	4,000~8,000円 ※取組内容による	全域
	総合的病害虫・雑草管理(IPM)と組み合わせた畦畔除草及び秋耕の実施	水稻	4,000円	中通り・会津地方
	総合的病害虫・雑草管理(IPM)と組み合わせた交信攪乱剤による害虫防除	りんご、もも、なし、西洋なし	8,000円	全域

※本制度は、予算の範囲内で交付金を交付する仕組みです。申請額の全国合計が予算額を上回った場合、交付金が減額されることがあります。